



詩・俳句・短歌

今回の児童・生徒のコーナーでは、東陽小のお友達のお作品を紹介いたします。(敬称略・順不同)



6年 渡辺 裕之

燃えた千メートル

「ヨイ ドン」  
ピストルがなった。  
いっせいに走った。  
砂ぼこりにまみれながら  
先頭集団につき、次つぎと 抜き去った。  
前に一人、ぐんぐんスピードをあげた。  
一生けん命走った。  
もう一周ある 息苦しい  
無我夢中に ひたすら走る  
ゴールに入ったとたん体の力がぬけ  
目がまわりそうになる。  
しばらくして発表になった。



6年 平野 美和

あの日の思い出

一位から四位まで 大会新記録  
ぼくは、記録を八秒もちぢめ  
栄光の第二位  
大会新記録なんて夢のよう  
グランドが急に 大きく見えた。

私の心の中には、  
あの修学旅行の思い出がしまつてある。  
青銅の美しい大仏との出会い  
「心をなごませてくれた」  
みんなと、共に過ごした旅館でのこと  
「楽しかったな。入浴」  
このほかに、数えきれないほどある。  
あんなに楽しい一日を過ごしたことはない。  
今、私の心に、次つぎとよみがえってくる。  
あつという間に過ぎ去った  
あの日の思い出が

一生忘れることのないだろう思い出が：  
私の一番の宝物として  
いつまでも大切にしまっておきたい。



6年 本橋 宏子

戦争

昭和二十年八月、  
広島や長崎に原爆が落とされた年。  
原爆が落とされなくても、  
たくさんの人が死ななくても、  
日本は負けていた。  
負けていたのに、  
なぜ戦争を続けたの……  
なぜたたくさんの人びとを苦しめたの!!  
残された家族たちの悲しみ、  
家族のことを考えながら  
巻きぞいになって死んでいった人びと……  
こんな人たちのためにも、  
戦争でぎせいになった人たちのために、  
戦争は、  
戦争は、二度と  
おこしてはならない。



6年 越川 信一

ウインドの 新茶の値段 はれやかに



6年 椎名 誠一

たけのこの せのび競争 空つかめ



6年 伊藤 陽子

雨あがり あじさい光る つゆの色

気づかいし田植も了えて豊かなる  
小川の流れに 苗箱洗う  
土屋 好

七十もなかばとなりしこの日頃  
脈絡も無き夢かけめぐる  
山崎平八郎

なだらかな山に囲まれ上総田は  
緑り宏びろ驚の舞い来ぬ  
青柳 フミ

哇刈りの了えて安らぎ仕舞湯に  
うすき胸をば愛しみ洗う  
岩沢 芳江

風紋のしろき砂丘に這いつきて  
浜昼顔のほのぼのと咲く  
伊藤 鏡子

百姓は俺で終りと淡たん  
煙草くゆらす喜寿の現役  
越川 雪枝

やはらかき槐嫩葉の透く空に  
午後の半月白くまどろむ  
竹内 紀葉